

普通讀本

高橋熊太郎編

一編上

T1A1  
10  
(TA33)

明治二十九年十二月六日  
文部省檢定濟



高等科用 普通讀本

凡例

一本書ハ小學校高等科ノ讀本ニ供スル目的ヲ以テ編纂シタルモノトス故ニ其冊數ハ一年二冊トナシ八冊ヲ以テ全部トナス  
一書中掲グル所ハ文學理科道德地理史傳及ヒ實業ニ涉レル有趣有益ノ事項ヲ擇ビ之ヲ編入スルニハ課ヲ逐ヒ卷ヲ改ムルニ隨ヒ漸次ニ其程度ヲ高クスルコトニ注意セリ

明治二十年四月

編者 識

高等普通讀本一編上目次

第十課	第九課	第八課	第七課	第六課	第五課	第四課	第三課	第二課	第一課
大坂	旁ノ事	名工ノ用意	植物ノ話 其一	物體ノ三狀	扇ノ事	楠正行	音及巳訓	食物ノ事	學者ノ箴言

十六丁	十五丁	十三丁	十八丁	六丁	三丁	三丁	二丁	一丁	一丁
-----	-----	-----	-----	----	----	----	----	----	----

科用

科用

第十課	休息及ヒ睡眠ノ事	十七丁
第十一課	貨幣ノ通用	十九丁
第十二課	冠及ヒ杵	二十一丁
第十三課	身體ノ機關 其一	二十二丁
第十四課	惠王ノ慚徳	二十四丁
第十五課	駝鳥	二十五丁
第十六課	文字ノ構造	二十八丁
第十七課	水氣ノ凝縮	二十九丁
第十八課	地球ノ經緯度	三十二丁
第十九課	最美ノ行	三十四丁
科用	普通讀本 一編上	終

高等科用 普通讀本 一編上

高橋熊太郎 編

第一課 學者ノ箴言

佛蘭西ノ國ニ學者淵業ノ地アリ人其地ヲ過ク  
 レバ多ク其廬ニ詣リテ教ヲ乞フ曾テ一農夫アリ  
 リ偶此地ニ來リ先ツ教ヲ受ケントテ其家ニ至  
 リタリ學者ハ農夫ニ向ヒテ曰ク子ガ問ハント  
 欲スルハ何事ゾト農夫曰ク唯終生守ルベキ箴  
 言ヲ授ケヨト是ニ於テ學者ハ筆紙ヲ執リ一句  
 ヲ記シテ之ヲ與ヘケレバ農夫ハ大ニ悦ビテ去

高等科用

一編上

高橋熊太郎

ル。既ニシテ家ニ歸レバ夕陽山ニ沈ミ暮色蒼然カ  
リ時ニ傭夫等問フ枯草ハ已ニ燥ケリ之ヲ藪舎  
ニ藏ムベキカ農夫ノ妻曰ク日晷已ニ晚シ明朝  
藏ムルモ妨ナシ農夫ハ之ヲ聞キ絶叫シテ曰ク  
今日吾名士ノ教ヲ乞ヘリ先ヅ之ヲ見テ其可否  
ヲ決セント懷中ヨリ一紙ヲ出シ妻ニ與ヘテ讀  
マシムレバ其文ニ曰ク

今日ノ業ハ明日ニ延バスコト勿レ

農夫ノ曰ク然ラバ直ニ之ヲ藏ムベシト傭夫藏

メ畢レバ天氣俄ニ變ジ滿天墨ヲ流セルガ如ク  
風雨烈シク來リ河水大ニ漲リ一村爲メニ其害  
ヲ被リシガ獨リ農夫ハ之ヲ免レタリ是ヨリ益  
箴言ヲ信ジ終生守リテ怠ラス遂ニ大ニ富ヲ致  
シト云フ

第二課 食物ノ事

吾人ノ常ニ食スベキ物甚ダ多シ穀類魚介鳥肉  
獸肉及ビ果實菜蔬ノ類ナリ穀類ハ米麥豆粟黍  
等ニシテ魚類ニハ鯛鯉鰈鮭鱈鯉鮒等アリ介類  
ニハ鰻蛤蜊牡蠣等アリ鳥肉トハ雁鴨雞鶩等ノ



肉ヲ云と、獸肉トハ牛、豚、猪、鹿等ノ肉ヲ云フ、果實トハ柳、蜜柑、梨、葡萄、桃、栗ノ類トシ、菜蔬トハ蘿蔔、胡蘿蔔、蕪菁、蓮根等トス。

凡ソ食物ヲ調理スルノ味五アリ、鹹、甘、酸、辛、苦是ナリ、此中鹹ヲ第一トス、鹹ハ即チ鹽ニシテ、多クハ海中ヨリ取レドモ、又或ハ陸地ニモ産シ、坑ヲ穿チテ之ヲ採ル、因テ此鹽坑ヨリ得ルモノヲ陸鹽ト云フ。

斯ノ如ク土地ニハ、食スベキモノ甚タ多シト雖モ、吾人ハ食スル爲メニ生活スルニ非ズシテ、生活スル爲メニ、食スルコトヲ忘ルベカラズ。

第三課 音及ビ訓

總テ文字ニハ、音ト訓トノ二様ノ讀方アリ、音ト云フハ、文字ノ呼聲ニテ、訓ト云フハ、文字ノ意味ナリ、松ト云フ字ハ音ハシヨウニテ、訓ハマツナリ、遊ト云フ字ハ音ハイウニテ、訓ハアソブナリ、汝等試ニ左ニ示ス文字ノ音ト訓トヲ言ヘ。

- 船 車 賣 買 輕 覺 聽 臨 浮
- 響 顧 贈 凌 懼 寇 據 駐 帥

又或ハ文字ニテ、一ツノ訓ヲ生スルモノアリ、例ヘ

バ太陽、蝙蝠、空氣等ノ如シ。左ニ示スモノハ、皆ニ  
字ニテ、一ノ訓ヲ生ズルモノナリ。汝等其音ト訓  
トヲ言ヘ。

産業 教師 紙鳶 塞子 骨牌 軌道

紳士 精神 暗礁 病氣 颶風 鞦韆

汝等書ヲ讀ムトキハ、第一二音ト訓トニ注意セ  
ヨ。若シ之ニ注意セザルトキハ、之ヲ讀ミ且ツ講  
ズルコト能ハズ。

第四課 楠正行

楠正行ハ正成ノ子ナリ。父死スル時、年甫メテ十

一ナリシガ、父ノ遺誡ヲ奉ジ、追念シテ已マズ。常  
ニ羣童ト戯レ遊ブニモ、敵ヲ斬ルノ狀ヲ爲シ、或  
ハ竹馬ヲ走ラシテ、尊氏ヲ追フ者トセリ。後醍醐  
帝ノ吉野ニ遷リ給ヒシヨリ、和田次郎等ト行宮  
ニ赴キ、心ヲ竭シテ守衛ス。帝崩ジ、後村上帝踐祚  
ノ初メ、屢賊軍ヲ破リテ、尊氏ヲシテ憂懼枕ヲ安  
ンセザラシムルニ至ル。

正平二年十二月、高師直及ビ師泰、兵六萬ヲ率、井  
テ來リ犯スニ及ビ、正行行宮ニ詣リ、奏請シテ、曰  
ク、先臣正成、尪弱ノ身ヲ厭ハズシテ、賊ノ強威ヲ

挫キ、以テ宸憂ヲ安ンジ奉リ、後幾モナク逆徒ニ  
 當リ、終ニ命ヲ湊川ニ致セリ。時ニ臣年十一、遣ハ  
 シテ河内ニ還シ、懇ニ遺言スルニ、一族ヲ糾合シ、  
 朝敵ヲ除滅シ、宇内ヲシテ再ビ皇化ニ歸セシム  
 ベキコトヲ以テセリ。今臣年既ニ壯ナリ、而シテ  
 稟性羸弱、常ニ待ソコトアルノ身ヲ以テ、徒ニ不  
 測ノ疾ニ嬰リ、上ニシテハ不忠ノ臣トナリ、下ニ  
 シテハ不孝ノ子トナランコトヲ恐ル。方ニ今師  
 直師泰來リ、犯サントス、實ニ臣ガ報ヲ效スノ秋  
 ナリ。若シ彼ガ首ヲ獲ルニ非ズンバ、則臣兄弟ノ



首ヲ彼ニ授ケン、雌雄ノ  
 決ハ、此一戦ニアリ。願ク  
 ハ一タビ龍顔ヲ拜スル  
 コトヲ得テ去ラント、言  
 畢テ泣下ル。帝親ク臨ミ  
 ロツカラ救シテ宣ハク、  
 前日ニ回ノ戦共ニ克捷  
 ヲ得テ、賊ノ膽ヲ寒カラ  
 シメタリ。汝ガ累世ノ武  
 功殊ニ嘉尚スベシ。賊復



夕兵ヲ盡シテ來リ犯スト聞ク真ニ安危ノ決ナ  
 リ然リト雖モ進ムヲ知テ進ムハ時ヲ失ハザシ  
 シガ爲メナリ退クヲ知テ退クハ後ヲ全クセン  
 ガ爲メナリ汝ハ朕ノ股肱ナリ慎ミテ自愛スベ  
 シ正行拜俯シテ暫クハ首ヲモモタゲ得ズ是レ  
 ゴ最後ノ參内ナリト思ヒ定メケレバ泣々退出  
 シ一族從兵ヲ率井テ更ニ後醍醐帝ノ廟ヲ拜シ  
 戰若シ利アラズバ生テ還ラジト誓ヒ乃チ族黨  
 百四十三人ノ姓名ヲ如意輪堂ノ壁板ニ書シテ  
 其後二

かへらどとねて思へば梓ゆき

なまきのむよ入る名をりびむる

ト一首ノ歌ヲ添ヘ記シ各髮ヲ截リテ佛殿ニ納  
 メ即日吉野ヲ發シテ敵陣ヘ向ヒタリ。

明年正月高師直ト大ニ四條畷ニ戰ヒ纔ニ三千  
 ノ寡兵ヲ以テ賊ノ六萬ニ當リ迫リテ其陣ヲ衝  
 キ殆ド師直ヲ得ントス此日己ヨリ申ニ及ブマ  
 デ戰ヒ凡ソ三十餘合賊數百千人ヲ殺傷シ我兵  
 モ亦死亡略盡キタリ乃チ餘兵五十餘人ト盾ヲ  
 負ヒ佯リ走リテ師直ヲ誘フ師直覺リ兵三百ヲ

科用音云言ノ  
一級  
其功宜戒

分チ遣テ之ヲ追フ。正行返戦シ、五十餘級ヲ斬リ、尚前テ復夕師直ニ迫ル。而シテ正行正時身ニ中ルノ箭蝟毛ノ如ク、兵皆重創ヲ被リテ用フベカラズ。正行乃チ呼ビテ曰ク事畢レリ、賊ニ獲ラル、コト無レト。正時ト交刺シテ斃ル。時二年二十三十ナリ。

第五課 扁ノ事

教師次郎ニ告ゲテ曰ク、文字ヲ知ルニ先ヅ注意スベキコトアリ。余今之ヲ語ラン、汝靜ニ坐シテ能ク之ヲ聞キ、而シテ余ノ問フ所ニ答ヘヨ。

教師 次ニ記セル文字ヲ見ヨ此等ノ文字中如何ナル部分ガ同一ナリヤ。

- 松
- 杉
- 梅
- 櫻
- 柳
- 枝
- 根

次郎 此等ノ文字ハ皆木ノ字ヲ有セリ。

教師 然リ、木ノ字ハ何レノ方ニアルヤ。

次郎 木ノ字ハ左ノ方ニアリ。

教師 然リ、斯ノ如キ組立ノ文字ニテ、左ノ方ニアル部分ヲ總テ扁ト名ヅク。故ニ此等ノ文字ハ皆木扁ナリ。次ニ記スル文字ハ何扁ナリヤ。

科用音云言ノ  
一級  
其功宜戒

姉 妹 好 妙 娘

次郎

此等ハ皆左ノ方ニ女字ヲ有セリ故ニ之ヲ女扁トス

教師

然リ猶次ニ記スル文字ヲ見テ其何扁ナルヲ言ハ

鯉 鮒 鯛 鮭 鰻

綿 絹 絲 織 綢

袷 袴 袖 袴

蜂 蟻 蟬 蛙 蠅

教師 右ノ如ク文字ニハ扁ヲ同ウスルモノ多ク

アリテ其扁ニ由リテ文字ノ意味モ亦略類

ヲ同ウスルモノナリ例ハ木扁ノ文字ハ

概子木ノ種類カ然ラザレバ木ノ事ニ關係

スルモノヲ示セリ魚扁虫扁等モ亦皆然リ

トス汝此以後文字ヲ讀ムトキハ能ク之ニ

注意セヨ

第六課 物體ノ三狀

天地間ニ在ル物ハ其大小形狀千差萬別ナリト雖モ之ヲ總稱シテ物ト謂ヒ既ニ物アレハ必ズ其體アラザルナシ故ニ又之ヲ物體トモ謂フ例

へバ一個ノ石、一滴ノ水ハ、皆物體ナリ。日、月、星、星、吾人ノ棲息スル地球モ、亦各物體ナリ。其他草木、花卉ノ類、禽獸、魚、蟲ノ類、皆盡ク物體ニラザルハナシ。加フルニ吾人ノ四周ニ充滿スル空氣ノ如キモ、眼之ヲ見ルコト能ハザレドモ、亦是レ一ノ物體ナリ。乃チ團扇ヲ以テ煽ケバ、物アリテ顔ニ觸ルヲ覺ス、是レ其證ナリ。又香臭ノ氣ノ如キモ、其質極メテ么微ナレバ、眼之ヲ見ルコト能ハズト雖モ、若シ其體ナケレバ、何ヲ以テ之ヲ嗅クヲ得ンヤ。今天地間ノ萬物ヲ取テ、一々其形

ノ異ナル所ヲ指示ス可カラズト雖モ、物理學ニ於テハ、其類ノ相同キ物ニ因テ、之ヲ三體ニ區別セリ。即チ固體、液體及ビ氣體是ナリ。或ハ又液氣ノ二體ヲ合シテ、流動體ト稱スルコトアリ。諸テ固體トハ、金石ノ如ク、其凝聚ノ力甚ダ強クシテ、固ク一塊ヲナスガ故ニ、之ヲ碎クニ非ザレバ、其形常ニ變ズルコトナク、又其一端ヲ舉グレバ、以テ全體ヲ動カスヲ得ベシ。猶急須ノ柄ヲ持テ、其體ヲ舉グルガ如シ。液體ハ之ニ反シ、水、油等ノ如ク、凝聚ノ力甚ダ弱クシテ、流動シ易ク、且ツ

其一部ヲ舉ゲントスレバ、輒ク離ル、者ナリ。例  
 ヘバ柄杓ヲ取テ水ヲ酌ムガ如シ。或ハ之ヲ他ニ  
 移セバ、其觸ル、所ノ物ニ隨テ、忽チ其形ヲ變ズ。  
 諺ニ云フ所ノ、水ハ方圓ノ器ニ從フトハ、即チ是  
 ナリ。又氣體トハ、空氣、蒸氣ノ類ノ如ク、其質全ク  
 前ノ二體ト異ニシテ、其分子互ニ相反撥スルノ  
 性强キガ故ニ、苟モ空虛ノ場所アレバ、直チニ擴  
 リテ之ヲ充サントス。  
 熟萬物ノ情態ヲ察スルニ、凡ソ何物ニ限ラズ、皆  
 三體ノ中、孰レカ其一ニ現ハレザルモノナシ、且

ツ其形ヲ變ズルモ、亦此三體ノ外ニ出ツルコト  
 ナシ。金銀ノ類ハ、其質堅牢ノ固體ナレドモ、烈火  
 ニテ熔セバ液體トナリ、水ハ常ニ液體ナレドモ、  
 溫熱ニ遇ヘバ蒸散シテ氣體ニ變ジ、寒冷ニ遇ヘ  
 バ凍結シテ固體ニ變ズルカ如シ。

第七課 植物ノ話

其一 根

植物ハ、動物ノ如ク移動スル能ハズシテ、一處ニ  
 生長シ、一處ニ定止ス。其能ク斯ノ如クナラシム  
 ルモノハ、即チ根ニ由ル。根ハ則チ下方ニ向テ延

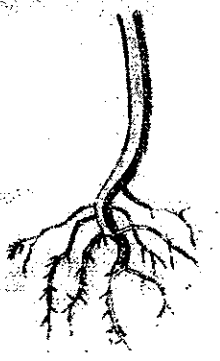


長シ、地ニ入り土ニ錯交附着ス、是ヲ以テ能ク喬木ヲシテ、大風ニ逢フモ顛仆ノ患ナカラシムルナリ。

若シ夫レ蘿蔔ハ、地下ニ一大根ヲ没シテ、其地上ニ見ハル、ノ部ハ少ナク、葉モ亦僅ニ數個ヲ挺出スルノミ、其莖極メテ短キヲ以テ、葉ハ直ニ根ノ上端ヨリ着生スルガ如シ。此ノ如キ大ナル根ト雖モ、仍ホ其周圍ニ毛狀ノ纖小根ヲ附屬スルナリ。

凡ソ樹木ノ如キ大ナル植物ハ勿論、野草ノ如キ

單弱細小ナルモノト雖モ、皆分歧セル根ヲ有ス。即チ地上ノ莖ノ枝アリテ四方ニ蔓延スルガ如ク、地下ノ巨根モ、尤モ繁密ナル根ヲ具ヘリ。左ノ圖ニ掲ゲタル莖ノ下ニ連ナル根ヲ見ヨ。恰モ鳥ノ足ノ如クニシテ、物ヲ攫ムノ指ヲ具ヘタルニ似タリ。但鳥趾ハ僅ニ四個ニ過ギザルニ、今根ノ指ハ、其數夥シクシテ算ヘ難キニアラスヤ。此ノ如ク數多ノ小指ヲ有シ、且ツ延長限リモナキ爪ヲ具フル



ヲ見レバ、草木ノ土壤ニ附着シテ、牢固拔ケ難キ  
モ、固ニ故アルヲ悟ルベシ。況ヤ毛根土砂ニ横入  
シテ、之ニ包裹セラル、ヲヤ、其益動カスベカラ  
ズシテ、大風アリト雖モ、力ヲ施スニ由ナキコト  
宜ナリトイフベシ。斯ノ如ク草木ヲシテ、土地ニ  
固定セシムルハ、即チ根ノ職分ナリ。  
然レドモ根ノ掌ル所ハ、獨リ之ニ止マラス。更ニ  
精巧ナル機務ヲ行フコトヲ知ラザル可カラズ。  
夫レ草木ハ、自ラ養フノ食ヲ大半地ニ仰グモノ  
ナリ。而シテ何モノ力能ク其給ヲ取り得ル。只其

レ根獨リ土中ニ在リテ地下ノ水ヲ吸ヒ、併セテ  
其生ヲ支フルニ必要ナルモノヲ收メ、之ヲ幹  
ノ纖維ニ輸送シテ、草木ハ始メテ其生ヲ遂グル  
ナリ。  
根ノ其職務ヲ行フニ就テ、尤モ奇異感歎スベキ  
ハ、根ハ正シク其草木ノ要スル品類ヲ辨知スル  
ニ似タルノ一事ニ在リ。去レバ甲種ノ草木ノ根  
ハ、之ヲ養フニノ適スルモノヲ吸收シ、乙種ノ  
草木ノ根ハ、亦之ニ適スル滋養物ノ之ヲ吸入ス。  
斯ク植物ノ根ハ、各水ノ外、土中ヨリ收入スベキ

モノ、中ニ何ガソレノニ適スルカヲ辨別ス  
ルヲ以テ、縦ヒ草木ヲ移スモ、其要スル所ノ食養  
ヲ得ル能ハサルノ土地ニ植エバ、根ハ之ヨリ物  
ヲ吸フノ作用ヲ止ムルガ故ニ、其草木ハ漸ク凋  
衰シ、遂ニ枯死スルニ至ルベシ。  
根ノ深ク地中ニ入り、巨岩砂礫ニ周匝セラル、  
モ、仍ホ能ク蔓延シ、少シモ妨障セラレスシテ生  
長スルハ、如何ナル故ゾトイフニ、畢竟小根アリ  
テ、能ク地中ヨリ水ト食養トヲ吸収スルト同時  
ニ、己レ斷エズ、隨意ニ其端ヲ延長シテ生育スル

ヲ以テナリ

蓋シ稚根固ヨリ纖細ナレバ、如何ナル所ニモ潜  
入スルコト甚ダ容易ニシテ、且ツ自ら延長スル  
ニ、敢テ急ヲ要セス、徐々久シキヲ俟チテ足レル  
ノミナラズ、此尖端ノ如キハ固ヨリ何レノ方向  
ニモ能ク伸暢シ得ベシトナス

第八課 名工ノ用意

古ヨリ一事ヲ遂ゲ、一藝ヲ成シテ、大名ヲ世ニ揚  
グル者ハ、其研精用意モ、亦格別ノ事アリ。  
圓山應舉ハ、京都ノ人ニテ、近世ノ有名ノ畫家ナ

高野 圓山應舉 一巻 七

リ。或時人ニ卧猪ノ圖ヲ描カンコトヲ乞ハレケルガ、應舉未ダマノアタリ野猪ノ卧シタルヲ見シ事ナシ、如何セント思ヒ居タルニ折簡ハ瀬ヨリ老婆ノ薪ヲ負ヒ、己レノ家ニ來タルアリ。就キテ此事ヲ問フニ、山家ニテハ稀ニ見ルコトアリト答フ。因テ云フ、汝重ネテ之ヲ見バ、直チニ來リ告ゲヨ、必ス厚ク報ゼント約シ置キシニ、月餘アリテ老婆急ギ來リテ、適老婆ガ家ノ後ナル竹林中ニ、野猪來リ卧セリト告ゲシカハ、應舉云ク、汝先ツ歸リ必ス驚カス勿レト云、遽ニ門人兩三輩

ヲ從ヘテ、ハ瀬ニ到ルニ、野猪ハ猶卧シ居タリ。應舉直ニ筆ヲ接テ之ヲ寫シ、厚ク老婆ニ報ヲナシ、家ニ歸リ、更ニ之ヲ清寫シ置ケル。後鞍馬ヨリ來レル老翁ニ又卧猪ノ事ヲ問フニ、山中往々之ヲ見ルト云ハバ、乃チ畫ク所ノ圖ヲ出シテ示スニ、翁之ヲ見テ、畫ハ宜シケレドモ、卧猪ニアラス、是レ病猪ナラント云フ。應舉驚キ其故ヲ問ヘバ、卧猪ハ安眠ノ中ト雖モ、其態自ラ勢アリ。僕山中ニテ病猪ヲ見シニ、實ニ此畫ノ如シト云フニ、應舉始メテ曉リ、具ニ翁ニ卧猪ノ形容

ヲ叩キ嚮ニ畫キシ所ヲ捨テ、翁ノ詳ニ説ク所ニヨリテ之ヲ改メ寫セリ。

後八瀨ノ老婆ニ逢ヒ先キニ見タル所ノ野猪ノ事ヲ問ヘバ、婆云ク、恠ムベシ、彼ノ野猪翌朝竹林中ニ死シ居タリト。應舉之ヲ聞キテ彌老翁ノ言ニ感ジ、再ビ翁ノ來レル時、後ニ圖セシ幅ヲ示シケレバ、是レ真ノ卧猪ノリトテ、手ヲ拍テ驚嘆シタリト云フ。應舉ノ用意洵ニ感マズシ。凡ソ畫ヲ學ブモノ、寫生セントセバ、精密ニ實物ヲ觀察シ、其真ニ迫ル様ニ描寫スルヲ第一ニ務ムベキナリ。

第九課 旁ノ事

余ハ前課ニ於テ、文字ニハ左リニ扁ト云フモノアルコトヲ諭セリ。今又右ノ部分ニ就キテ、説キ聞カス可シ。

松、杉、梅、櫻、柳、枝、根等ナル文字ノ、皆木扁ナルコトハ、汝等ノ既ニ知レル所ナレドモ、其右ナル部分ヲ、何ト稱スルヲ知レリヤ。斯ノ如キ形ノ文字ニテ、其右ニアル部分ヲ、總テ旁ト稱スルナリ。松ト云フ字ハ、旁ハ公ニシテ、梅ト云フ字ハ、旁ハ每



ナリ。而シテ共ニ木扁トス。總テ文字ニハ、扁ヲ同  
ジクスルモノ多キト一般ニ、旁ヲ同ジクスルモノ  
モ亦少カラズ。

鳴鶴、鴉、鳩等ハ、扁ハ異ナレドモ、旁ハ皆同ジ。尚  
次ニ旁ノ同ジキモノ、二三ヲ舉グベシ。

利 別 制 刺 刺 則

功 助 勤 勘 動 勵

雌 雄 雉 雞 離 難

此等ノ類頗ル多シ。凡ソ斯ノ如キ形ノ文字ヲ知  
ルニハ、汝等先ヅ扁ト旁トニ注意シテ、其ノ字ハ

扁ハ何ニシテ旁ハ何某ノ字ハ何扁ニシテ何旁  
ナルコトヲ識別シテ常ニ記憶セヨ。

第十課 大坂

大坂ハ畿内攝津國ニ在リ。東京ヲ距ルコト百四  
十里餘、大坂府廳ノ在ル處ニシテ、人口凡ソ三十  
萬、東京ニ亞グ繁華ノ都府ナリ。古ハ浪速ト稱シ、  
仁德帝ノ舊都ニシテ、今ノ高津宮ハ、即チ帝ヲ祀  
レルモノナリ。

全都府ヲ別テ東西南北ノ四區トナス。西南ハ茅  
渟海ニ臨ミ、東ハ地稍高クシテ北ハ平坦ナリ。街



衢清潔ニシテ幅廣久溝  
 渠四方ニ通ジ運漕ノ便  
 到テガル所ナク從テ橋  
 梁ノ多キ本邦ニ甲タリ  
 淀川ノ本流ハ府ハ西ヲ  
 流レテ西南海ニ瀉ギ河  
 口ニハ帆檣林立シ船舶  
 ノ出入常ニ甚タ繁シ又  
 河口ニ小丘アリ天保山  
 ト云フ此ニ燈臺ヲ建設

ス。

此府ハ中國西國等ノ要路ニ當ルヲ以テ百貨輻  
 輳シ豪商富家軒ヲ並ベ商業ノ隆盛ナルコト邦  
 内其右ニ出ツルモノナシ大坂城ハ東ニアリ在  
 昔豊臣秀吉ノ築キシ著名ノ堅城ニシテ今ハ大  
 坂鎮臺ノ本營ナリ又宏壯ナルハ造幣局ニシテ  
 其他官衙學校神社佛閣ノ壯麗ナルモノ頗ル多  
 シ又京都神戸及ビ堺等ニ達スル鐵道アリ實ニ  
 四通五達ノ地ト謂フベシ

第十一課 休息及ビ睡眠ノ事

高等算術 第一編 十七

凡テ身ヲ勤カシテ、筋肉ヲ活潑ニ使ハ、體ヲ成長ヲ助クルノミナラス、又健康ヲ増スモノナリ。然レドモ運動モ多クスレバ、終ニ疲勞ヲ生スルナリ。此時ニ之ヲ回復スルノ良法ハ、休息ト睡眠トノ二ツアルノミ。休息トハ、身體全ク靜止スレドモ、精神ハ尚知覺アル時ヲ云ヒ、睡眠トハ、身體精神共ニ全ク用ヲ休ム時ヲ云フナリ。休息ハ唯筋肉ノ疲勞ヲ回復スルノミナラス、又消化機ノ運用ヲ盛ニシ、精神ヲ爽快ナラシムルモノナリ。睡眠ハ、身體精神共ニ安穩ヲ得テ、強壯ヲ回復スルノ効多シ。然レドモ食後ニハ、決シテ眠ニ就クベカラズ。何トナレバ消化機ノ運用ハ、睡眠中大ニ微弱トナルモノナレバナリ。

人其性質ト慣習トニ因リテ、休息睡眠ノ時間ヲ痛ク減ジテ、永ク職業ニ從事スルモ、身ノ健康ヲ害セザルモノアリ。然レドモ此ノ如キ人ハ、衰老ヲ早ク來スカ、又ハ僅ノ疾病ニモ、俄ニ死ヲ致スコト往々コレアリ。之ニ反シテ、或人ハ常ニ懶惰ニ習ヒテ、過多ノ時間ヲ、休息ト睡眠トニ費スモノアリ。此ノ如キ人ハ、筋肉衰耗シテ、活力漸ク竭

スルノ効多シ。然レドモ食後ニハ、決シテ眠ニ就クベカラズ。何トナレバ消化機ノ運用ハ、睡眠中大ニ微弱トナルモノナレバナリ。

人其性質ト慣習トニ因リテ、休息睡眠ノ時間ヲ痛ク減ジテ、永ク職業ニ從事スルモ、身ノ健康ヲ害セザルモノアリ。然レドモ此ノ如キ人ハ、衰老ヲ早ク來スカ、又ハ僅ノ疾病ニモ、俄ニ死ヲ致スコト往々コレアリ。之ニ反シテ、或人ハ常ニ懶惰ニ習ヒテ、過多ノ時間ヲ、休息ト睡眠トニ費スモノアリ。此ノ如キ人ハ、筋肉衰耗シテ、活力漸ク竭

キ、精神常ニ惜々トシテ事物ヲ辨識スルコトナク、學問ヲ研究スルノ力ナドハ、絶テナキニ至ルナリ。夫レ此種ノ人ノ如キハ、生涯ノ中他人ヨリ三倍ノ損ヲ被ムルモノト爲スベシ。第一ニハ、休息睡眠ノ爲メニ過多ノ時間ヲ失ヒ、第二ニハ、職業ヲ務ムベキ手間ヲ減少シ、第三ニハ、此惡習ヨリ來ス害ノ爲メニ生命ヲ短クスルナリ。此兩人ノ如キ慣習ハ、其ニ中正ヲ得タリト云フ可カラズ、皆弊害ノ甚シキモノナレバ、努メテ之ヲ改メスンバ有ルベカラズ、睡眠ハ七時間若ク

ハ八時間ニ亘ルヲ適度トス故ニ此適度ノ睡眠ヲナシタル時ハ、速ニ卧床ヨリ起キ出テ、各自其業務ニ就クベシ。果シテ此ノ如クナラバ、身體ノ健康ヲ保チ、幸福ヲ享ケ、天然ノ壽ヲ全クスルコト疑ヒナシ。

第十二課 貨幣ノ通用

古昔草昧ノ世ニ在テハ、通貨ヲ用ヒズ、物ト物ト相易ヘタルモノナリ。蓋シ織工、布帛ニ餘アリテ食物足ラザレバ、其餘ヲ以テ米麥ニ易ヘント欲シ、農家ニ至ランニ、農家之ヲ要セズ、要スル所ハ

犁ナリト曰ハ、織工ハ之ヲ要スル治工ヲ求人  
先ヅ之ト交易シ、次ニ其犁ヲ以テ、農夫ト易ヘザ  
ルベカラズ。然レドモ不幸ニシテ、治工ヲ求メ得  
ザルトキハ、更ニ去テ他ノ農夫ヲ尋ネザルベカ  
ラズ。此ノ如クナレバ、織工ハ未ダ農夫ヲ尋ネ出  
サズルニ、身ハ先ヅ餓死センモ知ルベカラズ。偶  
之ヲ要スル農夫アルモ、有スル所ノ米麥少ナク  
シテ、布帛ノ價ニ當ツルニ足ラザルコトアリ。此  
ノ如キ不便ハ、獨リ織工ト農夫トノ間ノミナラ  
ズ、凡百ノ事皆然リ。故ニ物ト物トノ交易ハ、開明

ノ世ニ行フ能ハズ。是ニ於テカ貨幣ノ通用アリ、  
以テ交易ノ媒トナル。

凡ソ物長短ヲ度ルニ尺度ヲ以テシ、輕重ヲ量ル  
ニ權衡ヲ以テシ、時期ヲ度ルニ年月時日ヲ以テ  
ス。彼是相對比セントスルトキハ、必ズ之ガ標準  
ナカルベカラズ。貨物ノ賣買交易ノ如キモ、彼是  
價格ノ對照第一ニ來ルモノナレバ、其多寡高下  
ヲ測ル尺度ノ必要ナルハ、貨幣ノ媒ノ必要ナル  
ニ讓ラズ。而シテ此尺度トナルモノモ亦、貨幣ト  
リ。故ニ買フ者モ、賣ル者モ、其價ヲ何圓何錢ト稱



シ、財産ノ額ヲ語ルモ、貨幣ヲ以テセリ。  
然ラバ貨幣ハ、交易ノ媒ニシテ、兼ネテ物價ヲ測  
ルノ尺度ナルハ明ナリ。今貨幣トスルニ、何等ノ  
物ヲ用フルヤ。之ヲ考フルニ天下普ク用フルハ  
金銀ナリ。別ニ紙幣ヲ用フレドモ、紙幣ハ金銀貨  
ノ代券ノミニシテ、眞ノ貨幣ト稱スベキモノニ  
非ズ。斯ク天下同ク金銀ヲ用フルハ、其故如何ヲ  
察ヒサルベカラズ。凡ソ貨幣トシテ用フベキハ、  
容積細小ニシテ、價格貴キ物タルベシ。否ラザレ  
バ運搬攜帶ノ不便アリ。又價格ノ昇降最モ少ナ

キモノヲ選バザルベカラズ。是貨幣ハ物價ノ尺  
度トナルモノニシテ、其價格朝暮ニ變ズレバ、他  
物ノ價格ヲ度ルノ尺度トシ難ケレバナリ。又其  
質ハ、人ノ普ク欲スルモノタルベシ。若シ否ラザ  
ルトキハ、交易媒介ノ用ヲ爲サレバナリ。今凡  
百ノ物ヲ見ルニ、是等ノ事ヲ備具スルコト、一モ  
金銀ニ若クモノナシ。是レ金銀ノ貨幣トシテ普  
ク用ヒラル、所以ナリ。

第十三課 冠及ビ沓

文字ニ扁ト旁トヲ有セルモノアルコトハ、汝等

既ニ能ク悟レル所ナラン。今又文字ニ冠ト沓トアルヲトニ就キテ諭スベシ。次ニ掲ゲタル文字ヲ見ヨ。

竿 筆 笛 筍 答 筭

此等ハ皆扁モナク又旁モナク、反テ上下ノ二部ヨリ成レリ。總テ此ノ如キ文字ノ上部ヲ冠ト云フ。看ヨ前ノ文字ハ其冠皆同一ニシテ、之ヲ竹冠ト稱ス。竹冠ニ干ヲ書スルトキハ、竿トナリ、聿ヲ添フルトキハ、筆トナルナリ。尚次ニ同一ナル冠ヲ有セル文字ノ例ヲ擧ゲベシ。

字 宅 家 客 室 安 寒

花 草 苔 苗 著 茂 芳

雲 霞 霜 雪 露 霧 雷

窈 窮 空 突 窻 窺 穿

字宅等ノ冠ヲ字冠ト稱シ、花草等ハ艸冠、雲霞等ハ雨冠ニシテ、窈空等ハ穴冠ナリ。

沓トハ志字ノ心、盆字ノ皿、烈ノ心ノ類ヲ云ヒ、皆文字ノ下部ニ在ルモノナリ。是ノ同一ノ沓ヲ有セル文字、亦冠ト比シク數多アリ。帝席、常幣、布市ノ巾ニ於ケル、古、各、名、吞、否、啓ノ口ニ於ケル、益、盛

盡盤盥盜ノ皿ニ於ケル志忘愁愚感怒ノ心ニ於ケル方如シ。

汝等既ニ文字ニ偏旁冠沓アルコトヲ知レリ。書ヲ讀ムトキハ常ニ此等ニ注意シ又文字ヲ指シ語ルトキハ其ノ字ハ何偏ナルコトヲ別チ其ノ字ハ何冠ニシテ何沓ナルコトヲ辨スベシ。

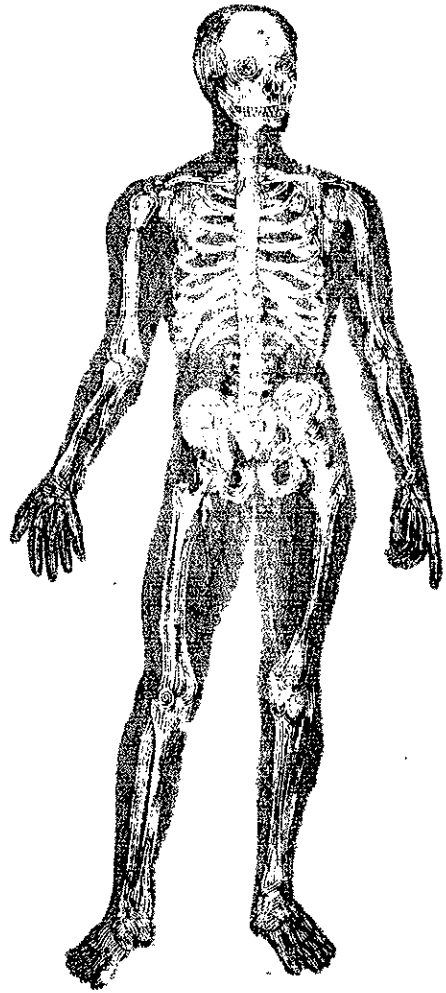
第十四課 身體ノ機關

其 一 骨格

獨立ノ氣象活潑ノ精神ハ事ヲ成スノ基本ナリ。此氣象ト此精神トナクレバ智アルモ用ヲナサ

スオアルモ稱スルニ足ラス。蓋シ此氣象ト精神トハ健康ナル身體ヨリ出ツルモノナレバ人皆健康ナランヲ要スベシ。健康ナランヲ要セバ須ラク養生法ヲ知ルベシ。養生ヲ知ラント欲セバ先ツ身體ノ構造ト功用トヲ知ラザル可カラス。人ノ身體ハ骨格ニヨリテ立チ骨格ニヨリテ動クモノナリ。骨格ハ大小長短ノ骨二百餘枚ヨリ成ルモノニシテ三大腔アリ。第一腔ヲ頭殼ト云ヒ第二腔ヲ胸廓ト云ヒ第三腔ヲ骨盤ト云フ。背骨部ニ脊椎ト名クル二十六枚ノ小骨アリ相連リ

科用 骨格  
 テ三腔ヲ接シ、以テ身幹ヲ爲ス。身幹ノ上下二四肢アリ、上ノ兩肢ヲ手ト曰ヒ、下ノ兩肢ヲ足ト曰フ。三腔ノ用ハ各種ノ機器ヲ藏メテ之ヲ保護スルニアリ。



骨格

故ニ頭殼ハ大腦小腦ト耳目鼻口ノ機器ヲ包ミ、胸廓ハ心

臟肺臟及ビ大血管ヲ藏メ、骨盤ハ肝臟胃腑及ビ大小腸ノ機器ヲ藏ム。又彼ノ脊椎ト名クル背部ノ長骨中ニハ一條ノ孔道アリ、中ニ脊髓ト稱セル微妙ノ機體アリ。凡ソ骨ハ土質ト膠質トヨリ成リ、土質ハ硬ク、膠質ハ柔カニシテ強シ。二質ノ分量各適度ヲ得テ、骨ヲシテ強固ナラシム。幼年ノ時ハ、膠質ノ分量多クシテ骨撓ミ易ケレバ、起坐歩行ノ際、其體常ニ正直ナランヲ要スベシ。俯屈ノ體習慣トナルトキハ、爲メニ體格曲斜トナリ、胸腔ヲ壓シテ、肺

心胃ノ作用ヲ害シ、疾病ヲ醸スコトアリ。

第十五課 惠王ノ慚徳

昔支那戰國ノ代、齊ニ威王ト云ヒシ君アリ。嘗テ好ミヲ修メンガ爲メニ、隣國ナル魏ノ惠王ト會合セシニ、惠王ハ威王ニ向ヒテ、齊國ニ寶アリヤト問ヒケレバ、齊王ハ別ニコレナシト答フ。惠王取敢ハス寡人ノ國小ナリト雖モ、猶徑寸ノ珠十枚アリテ、其光各車十二乗ノ前後ヲ照ラスニ足ルト言ヒテ、甚ダ誇レリ。

齊王笑ヲ會ミテ、サレバ寡人ノ寶トスルモノハ、

王トハ甚ダ異レリ。其ガ臣ニ檀子トイフモノアリ、國ノ南部ヲ守ラシメシニ、楚人憚カリテ其境ナル泗水ノ上リニ寇セズ、餘ノ十二ノ諸侯マデ來リ朝セリ。盼子トイフモノアリ、高唐ヲ守ラシメシニ、趙人恐レテ吾ガ東境ニ近ヅカズ、黔夫ト云フモノアリ、徐州ヲ守ラシメシニ、燕人畏レテ、鬼神ニ無異ナランコトヲ祈ルニ至レリ。其外種首トイフモノニ、盜賊ノ備ヲナサシメシニ、道ニ遺タルヲ拾フモノナキニ至レリ。此四臣ノ光ハ、千里ヲモ照ラシツベシ、豈ニ特ニ十二乗ノ三十



ランヤト答ヘケレバ、惠王ハ大ニ慚チ入りケル  
トゾ。  
人ハ身ニ襁褓ヲ纏フヲ耻トセズ、心ニ錦繡ヲ衣  
ルコトヲ希フベシ。金銀珠玉ハ、畢竟無益ノ飾ニ  
過ギズ、只心ノ智徳コソ眞ノ寶ナレ。其光ヲシテ、  
四方ニ照スニ至ラシメンコトヲ勉ムベシ。

第十六課 駝鳥

駝鳥ハ、世界最大ノ鳥ニシテ、身ノ高サ七尺ニ達  
ス、其翼ハ小ニシテ以テ飛ビ翔ルニ適セスト雖  
モ、脚ハ遠テ長大健捷ニシテ、力甚タ強キガ故ニ、

疾走スルトキハ、極メテ駿足ナル馬モ能ク及ブ  
コトナシ

駝鳥ハ、熱帯諸國ノ大砂漠中ニ野棲ス、他ノ鳥類  
ノ如ク、絶エテ巢ヲ造ルコトナク、穴ヲ砂中ニ穿  
チ、此中ニ其孵化セント欲スル所ノ卵ヲ置ク、而  
シテ其周圍ニ、往々數多ノ卵ヲ觀ルコトアルモ、  
駝鳥ハ曾テ之ヲ顧ミルコトナキニ似タリ。  
是ノ如ク、駝鳥ノ其卵ノ幾分ヲ放棄シテ顧ミル  
コトナキハ、吾人其何故ナルヲ知ル能ハスト雖  
モ、母鳥ノ爾カスルハ、必ズ其故アルコトナラン。

火傘天ニ張り、燄熱盛ナルニ當テハ、卵ハ唯其砂ヲ以テ蔽ヒ、母鳥ハ其處ヲ離レテ他ニ赴クコトアリ、是自カラ卵ヲ抱カザルモ、其熱度ノ不足スル所ナキヲ知レバナリ。  
駝鳥ハ、既ニ此ノ如ク大ナルヲ以テ、其卵モ亦大ニシテ、尋常ノ鷄卵ニ比スレバ、其二十個ヲ合シタルニ同ジ、從テ其殻モ厚クシテ、堅キコト陶器ノ如クナルハ、當ニ然ルベキ所ニシテ、敢テ驚異スベキニ非ズ。故ニ一卵能ク一家ノ朝食ト爲スニ足ルト云フ。

駝鳥ノ翼及ビ尾ニハ、甚ダ美麗ナル羽毛アリ、世人甚ダ貴重シテ、之ヲ裝飾ニ用フ。因テ獵夫ハ駝鳥ヲ獲ルコトヲ喜ベリ。  
然レドモ駝鳥ハ、走ルコト甚ダ迅疾ナルガ故ニ、馬ニ騎リテ之ヲ追フモ、其逃ル、ニ急ニシテ、疾走度ニ過ギ、疲困シテ自ラ休息スルヲ待ツマテ、二三日ヲ經ルニ非ザレバ、之ヲ獲ル能ハズ。然ラザレバ終ニ能ク之ニ及ブコトナカルベシ。  
駝鳥ハ、其泉流池沼等ニ赴キ、水ヲ飲ミタルノ後ニ、往々捕ヘラル、コトアリ。其故ハ、駝鳥ハ本ト



能ク渴ヲ忍ブモノト雖  
 モ一旦水ヲ得ルニ至テ  
 ハ自ラ過飲シテ胸腹ニ  
 充滿スルヲ忘レ疾ク走  
 ルコト能ハザレバナリ  
 又獵夫ハ巧ニ駝鳥ノ  
 皮ヲ被リ其羣ニ近ヅキ  
 駝鳥ノ未ダ其擬裝タル  
 ヲ覺ラサルニ先チテ能  
 ク其一ヲ殺獲スルコト

アリ。

駝鳥ハ幼時ニ之ヲ捕フルトキハ長ズルニ隨テ  
 善ク人ニ馴ル、モノニシテ間兒童ヲシテ其頸  
 ヲ捉テ背ニ騎ラシメ馬ノ如ク走ルコトアリ。  
 鳥糞中砂石ヲ嚙ミ下スモノ頗ル多シ。是其胃中  
 ニ入りテ食物ト相磨擦シ之ヲ粉碎シテ消化ヲ  
 助クルニ因ルナルベシ。  
 乃チ駝鳥モ亦瓦石木片釘小刀等ノ物ヲ善ク嚙  
 ミ嘗テ彈丸ヲ鑄ルニ際シ其未ダ冷却セズシテ  
 猶甚ダ熱セルモノ數顆ヲ吞ミ下シテ常ノ如ク

高第... 一編上

ナリシコトアリト云フ。

第十七課 文字ノ構造

汝等既ニ字形ニ關シテ、幾多ノ事ヲ學ビ知レリ  
然レドモ猶其學ブベキコト多シ。汝等ハ讀書ノ  
間時々遠近道途進退遲速等ノ文字ヲ見ルコト  
有ルベシ。此等ノ文字ノ之ヲ何ト稱スルカヲ知  
レリヤ。此ハ俗ニ進入ト稱スルモノナリ。即チ袁  
ニ進入ヲ書スレバ遠トナリ、束ニ進入ヲ添フレ  
バ速トナルナリ。

又間關閨開閑關等ノ門ヲ門構ト云ヒ國因因圓

園圖等ノ口ヲ國構ト云フ病たれト云フハ疾病  
痕痛痒等ノ口ニシテ麻たれトハ麻底府廣庫庭  
等ノ口ナリ扇房扉扇等ハ戸ヨリ成リ尾尺局屈  
居等ハ戸ニ合ヒテ作レリ。行字ノ腹ニ文字ヲ攪  
入シテ作レルモノアリ。即チ衡術街衍術等ノ如  
シ、又戈ヨリ成レルモノアリ。成我或載載等ノ如  
シ。

總テ此等ハ字形ノ變化ノ最モ普通ニシテ最モ  
著ルキモノナリ其詳ナルコトハ千萬モ多ク人  
字ナレバ悉ク茲ニ舉グルニ暇アラズ。汝等讀書

ノ際能ク文字ノ構造ニ注意シ、字書ヲ檢閲シテ、  
其理由ヲ悟ルベシ。

第十八課 水氣ノ凝縮

雨露霜雪、狀ハ異ナレドモ、其實侔シク、水氣ノ凝  
縮セルモノナリ。空中ノ水氣晝間ハ大陽ノ熱ニ  
暖メラレ、散解シテ其狀ヲ現ハサレドモ、夜間  
冷氣ニ逢ハバ、忽チ聚結シテ水ニ還リ、木葉ニ滴  
ル之ヲ露ト云フ。蓋シ露ハ雨ノ如ク天ヨリ降ル  
モノニ非ス、本ト空氣中ニ含ムノ水氣夜間ニ至  
リ、萬物ノ熱ヲ散ジテ冷了スル體ニ觸レ、爲メニ

寒冷ノ引テ凝リテ滴ルヲ致スノニ俗ニ壁汗ス  
ト云ハル也。壁ト河スルノ理ナシ、亦只氣中水  
氣ノ凝リタルニ過ドス、故ニ滿天雲封スルノ時  
ニハ、地球ハ正シク衣ヲ着タル如ク、溫熱ノ發散  
ヲ防グガ故ニ、露ノ降ルコト少シ。又風夜ニ露ノ  
降ルコトナキモ、是空氣ノ之ガ爲メニ吹拂ハレ  
テ、長ク一處ニ留マル能ハス、從テ其水氣ノ物ニ  
觸レテ、凝リ結フ暇ナキニ由レリ、露ハ能ク萬物  
ヲ滋潤シ、草木ヲ長養スルモノナリ、亞非利加洲  
内ノ埃及國ハ、四季雨降ラザレドモ、露多キヲ以

テ草木繁殖シ、綿花最モ長育セリ。是レ綿ハ降雨ヲ嫌テ水分ヲ好ムモノナレバ、此地ニ適セル國ニ宜ナリ。

夜ノ寒氣甚シク、寒暖計零度以下ニ降ルトキハ、水氣凝リテ露トナラズ、白キ霜ヲ結ブニ至ル。是レ水分子ノ結晶凍凝シテ成リタル者ナリ。樹木ノ霜枯ヲ防クニハ、藁ヲ覆シ水ヲシテ溫熱ヲ吐カシメサルトウニス。西洋ノ葡萄畑ニハ、夜中火ヲ焚キ、其煙ヲ畑ニ覆ハセテ、霜ヲ防クト云フ。是煙ヲ以テ暖ムルニハ、非ス。葡萄畑ノ煙ノ衣服ヲ

着セテ、其溫熱ノ發散ヲ防グマデナリ。猶曇夜ニ霜ノ少ナキ理ト一般ノミ。

雲結ビテ雨トナラントスル時、天寒甚シケレバ、此水氣ハ、直ニ凍結シテ雪片トナル。雪ヲ形容スルノ詞、様々ニシテ、或ハ柳絮ノ風ニ由テ起ルガ如シト云ヒ、或ハ鷺毛ノ飛ビテ散亂スルニ似タリト云ヒ、又之ヲ花ニ擬シ、之ヲ綿ニ擬ス。其地上ニ積ムヲ見テハ、樹々玉ヲ綴リ、逵路銀ヲ鋪クナド、言ヒ、文人雅客ハ毎ニ賞贊シテ措カズ。然レドモコハ是レ唯其皎然、皚然タルニ就テ、外



觀ヨリ評シタルノミ。若シ夫レ顯微鏡ヲ以テ、仔細ニ視察スルトキハ、其美麗ナルコト更ニ驚クベキ者アリ。片々皆六瓣ヲ呈シ、其狀一々同ジカラズ、愈變ジテ愈奇ナリ。去レバ古人モ花ヲ五出ト云ヒ、雪ヲ六出ト云ヘリ。

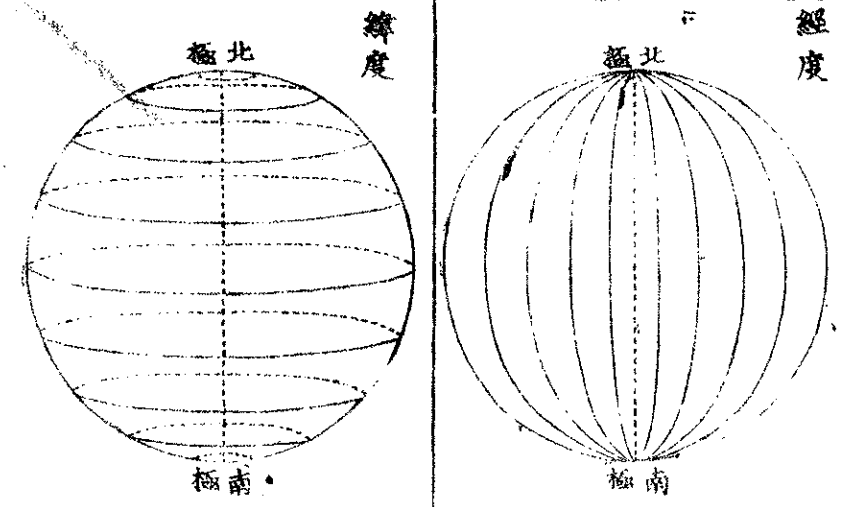
雲凝リテ雨トナラントスルノ際、中途烈寒ニ逢ヒテ凍結スル者アリ、之ヲ霰ト云ヒ、霰ノ大ナルヲ雹ト云フ。抑空氣ハ地面ヲ距ルコト愈高ク愈遠クレバ、地面ノ熱ニ感ズルコト、益少キヲ以テ、其溫度モ益減ズ。是レ高山ノ頂ニ、終年積雪ノ融

ケザル所以ナリ。然ルニ霰ノ降ル際ニハ、氣中ノ溫度之ニ反シ、上温ニシテ下冷ナリ、故ニ空氣ニ異常ヲ呈シ、多クハ一時ノ烈風ヲ起スモノナリ。

### 第十九課 地球ノ經緯度

我地球ハ太陽系中ニ列シ、大空ニ懸リテ太陽ノ周圍ヲ運行スル球形ノ一塊ナリ。之ヲ宇宙ノ大ヨリ考フレバ、滄溟ノ粟粒ニモ足ラズ。然レドモ思想ヲ地球ニノミ限リテ之ヲ考フレバ、其洪大ナルコト實ニ言フ可ラズ。故ニ其表面ニ列スル各處ノ位置距離ヲ定ムルニ、里ヲ以スルモ及ブ

可カラズ、乃チ之ニ許多ノ縱横線ヲ畫シ、其線ヲ數ヘテ之ヲ計算ス。大陸、島嶼ノ距離ヲ算シ、地形ヲ測リ、若クハ鵬程萬里ノ洋中ニ在テ、洪濤ヲ蹴テ長風ニ駕シ、能ク航路ノ方向ヲ誤ラザル所以ノ者ハ、一ニ此縱横線ノ計算ニ由ラズンバアラズ。然レドモ地球ノ表面實ニ此線アルニ非ズ、假ニ此線ヲ設ケテ以テ測算ニ便スルノミ。地球ノ中央ニ圍リテ、地球ヲ南北兩半球ニ分ツ大圈ヲ赤道ト曰フ。赤道ト直角ニ交リ、南北極ニ輻輳シ、各地球ヲ一周シテ大圈ヲ爲ス者、之ヲ經



度ト曰ヒ、其地ノ子午線ト名ク。即チ頂點ヲ過ギテ南北ニ走ルノ線タリ。太陽此線ニ中スルヲ、其地ノ正午ト爲ス。横線ハ皆赤道ニ平行シテ圈ヲ爲ス。故ニ兩極ニ近ヅクニ從テ、其圈愈小ナリ。是ヲ緯度ノ小圈若クハ平行線ト曰フ。即チ緯度ヲ算スルノ線タリ。凡ソ數學ノ定則ニ於テハ圓

周ヲ三百六十度ニ分チ、一度ヲ六十分トシ、一分ヲ六十秒トス。地球ノ經緯度モ亦之ニ同ク、先ツ赤道ノ周圍ヲ三百六十度ニ分チ、每度子午線ヲ畫シテ兩極ニ至ラシム。又赤道ノ南北兩極ニ至ルマデヲ各九十度トシ、亦每度平行線ヲ畫シ、以テ緯度ヲ算フ之ヲ算スルノ法、緯度ハ赤道ヲ起線トシ、次第ニ兩極ニ數ヘ九十度ニ至テ止ム。我東京ノ如キハ、北緯三十五度三十五分ニ在リト云ヘルハ、赤道以北此度數ニ位スルヲ以ナリ。經度ハ其起線天然ノ定リナシ、故ニ古來國々其京

城又ハ司天臺ノ子午線ヨリ始メ、東西ニ數ヘテ各百八十度ニ至リタレドモ、現今各國ヲ通ジテ、最モ廣ク行ハル、者ハ英國グリニチノ子午線ナリ。赤道及ビ子午線ハ、其一度各二十八里餘アリ、故ニ南北ノ距離ヲ知ラント欲セバ、緯度ノ差ニ里數ヲ乘ズベシ。但東西ノ距離ハ赤道近傍ヲ除クノ外ハ、此法ヲ以テ算スル能ハス。是經度一度ノ長サハ、赤道ヲ距ルニ從ヒ愈縮小シ、遂ニ一點ニ歸スレバナリ。又地球ハ二十四時間ニ一轉シ、西ヨリシテ東ニ

向フ、故ニ日月星辰皆却行シ、一時間ニ經度十五度ヲ過グ。是ヲ以テ經度ノ差ハ、時刻ノ差ヲ徵ス可シ。即チ西方ノ地ハ常ニ東方ノ地ヨリ遅ク、其差十五度毎ニ正ニ一時間ナリ、故ニ東京ノ正午ハ、西京ノ午前十時四十四分二秒ニシテ、英國倫敦ノ午前三時二十分四十秒ナリ。

### 第二十課 最美ノ行

波斯國ニ一ノ富人アリ。身老イ業務ノ煩忙ニ堪ヘサルヲ思ヒ、唯躬ヲ朝夕ノ衣食ヲ給スルニ足ルベキ、若干ノ金錢ヲ剩シ留ムルノミニテ、餘ノ

財産ハ盡ク之ヲ其三子ニ頒與スルト決心セリ。三子父ノ命ヲ聞キテ、俱ニ大ニ喜ビ、拜謝シテ各頒タルベキ財産ハ之ヲ受用スルニ其道ヲ以テシ、敢テ濫リニ消費スルコトナカルベシト誓約ス。資産ノ分配既ニ終ルニ及ビテ、父再ビ三子ニ告グルニ、左ノ言ヲ以テセリ。曰ク、

予ハ今汝等ニ分チタル財貨ノ中ニ雜ヘザル一個ノ品ヲ有セリ、即チ此ニ手ニ握レル所ノ貴重スベキ金剛石ナリ。此寶玉ハ汝等ノ中最美ノ行アラン者ニ、予褒賞トシテ與フベシ。然

ラシニハ各先ヅ是ヨリ出發シテ三ヶ月ノ旅行ヲ爲スベシ期ニ至リ歸リテ再ヒ爰ニ會シ以テ各爲シタル所ノ美事ヲ語レ

是ニ於テ三子皆束裝シテ途ニ上リ各異ナル地方ニ向テ進行シ、羈旅ニ在ルコト三月ノ後皆歸リ來リ、各其旅行ノ間ニ聞見シタル所ヲ叙ベ、特ニ其行爲ノ狀ヲ舉ク、長子先ヅ父ニ告ゲテ曰ク、大人ヨ、兒ハ旅途ニ在ルノ日、未ダ半面ノ識モアラサル人ニ、偶數多ノ貴重ナル寶玉ヲ托セラレタリキ、其數ハ幾許トモ知レズ、托セシ人

モ曾テ之ヲ檢スルコトナカリシハ、兒ノ親ク知ル所ナリ、乃チ其一ニヲ取ルモ、之ヲ知ルニ由ナカルベシ、故ニ兒ニシテ若シ貪リテ自ラ富マサント欲セバ、之ヲナス容易ナルベク、且ツ發覺ノ懼モナカルベシ、然レドモ兒ハ數ヲ悉シテ之ヲ其主ニ還シ、嘗テ一毫モ取ルコトナシ、是ノ如キハ、之ヲ稱シテ美行ト爲スベカラザルカ、  
父之ニ向テ曰ク、

是ノ如キハ單ニ詐欺ナキノミ、未ダ以テ美ト

高等中道續六 一編二 三美 集天

爲スニ足ラズ。汝が行フ所正シト謂フハ、是レ  
アラシク然レドモ亦當然ノミ。若シ汝ヲシテ此  
行ニ反スルコトヲナサシメンカ、眞ニ不正ナ  
リ、竊盜ナリ、汝自ラ深ク愧ヅルナカラシヤ。汝  
ガ爲シタル所好シ、然レドモ之ヲ以テ美行ト  
ナス可カラザルナリ。

次ニ仲子進ミ告ゲテ曰ク、

兒馬ニ騎リテ旅行ス。一日小兒ノ湖水ノ濱ニ  
遊戯スルヲ看タリ。行將ニ其所ヲ通過セント  
スルニ當テ、小兒忽チ水中ニ陥リ、殆ト溺レン

トス。兒直ニ馬ヨリ下リ、水中ニ躍リ入り、小兒  
ヲ抱キテ之ヲ陸地ニ救ヒ舉ゲタリ。此事ノ狀  
況ハ其地ノ村人等モ、現ニ目撃セシ所ナリ。兒  
ガ言ノ虚妄ナラザルヲ證スベシ。是ノ如キハ  
以テ美行ト爲スベカラザルカ。

老人曰ク、

汝ハ汝ノ義務ヲ盡ストイフハ、是レアラシク人  
誰カ手ヲ懷ニシテ、小兒ノ溺死セントスルヲ  
看ルニ忍ビシヤ。故ニ汝ノ行固ヨリ好シト雖  
モ、未ダ之ヲ稱シテ美行トナスベカラザルナ



最後ニ季子進ニ出テ、告ゲテ曰ク、  
 大人ヨ、元來兒ニハ一個ノ仇敵アリ、兒ニ害ヲ  
 加ヘ、兒ヲ殺サント謀ルコト一日ニアラス、此  
 行ニ於テ、兒一夕險ヲ過グルニ方リ、路ハ崖岸  
 ノ上ニ通ジ、阻絶甚ダ危シ、兒行、其懸崖ニ近ツ  
 ク頃ホヒ、一物アルニ逢ヒ、馬驚キテ進マズ、兒  
 馬ヨリ下リテ之ヲ索檢スルニ、豈ニ圖ランヤ、  
 兒ガ宿仇ナリ、行旅ノ疲レニヤ、熟睡シテ前後  
 モ知ラス、若シ夢中少シニテモ、輾轉スルコト

アラバ、忽チ千仞ノ溪中ニ跌落シ、岩石ニ觸レ、  
 粉齏トナリテ、骸モ留メサルベシ、其生死全ク  
 兒ガ手ニ在リ、兒惻然思ハス之ヲ擁シテ平處  
 ニ移シ、而ル後、靜ニ攪起シテ、之ニ行キ去ルベ  
 シト教ヘタリ。

老人之ヲ聞キテ、喜色眉宇ニアラハレ、呼デ曰ク、  
 愛兒ヨ、金剛石ハ汝ガ物ナリ、噫、仇敵ヲ必死ノ  
 中ヨリ助ケ、怨ニ報ユルニ徳ヲ以テス、是レ最  
 美ノ行ニ非ズシテ、何ゾヤ、洵ニ神明ノ徳ニモ  
 比スベキナリト。

高等  
科用  
普通  
讀本  
編上  
終

明治二十年四月七日版權免許  
同年五月 出版

定價金十五錢

編者 東京府平民 高橋熊太郎

下谷區竹町一番地

出版人 東京府平民 小林八郎

日本橋區通旅籠町十一番地

